

図書館の現状

図書館長 片岡 義和

本校の図書館は、年間280日開館し、毎日平均延べ200～300人、年間約74,000人の学生の皆さんに利用されております。この内年間6,100人余りの学生に17,600点余りの本・雑誌・CD(内本・雑誌14,500冊)を貸出しており、これは年間本校の全学生(820人)が1人当たり21.4点(17.6冊の本)を借り出したことになります。この数字は全国の高専でトップレベルの数字ですが、反面図書館では静かに落ち着いて読書できないということにも繋がります。本校の図書館の広さは、閲覧室が332平方メートル(内書架部分200平方メートル)、マルチメディアコーナー48平方メートル、作業室23平方メートル、事務室32平方メートル、書庫72平方メートルの合計507平方メートルしかありません。また、本校の図書館の蔵書は、図書館内に、備品図書53,500冊、消耗品図書13,000冊、研究紀要4,200冊、研究用雑誌4,600冊、閲覧用雑誌2,700冊あり、外に教官研究室・共同研究室に15,500冊の合計93,400冊ほどの蔵書を有しております。この内約半数の45,000冊余りが閲覧室の開架書架に並べられております。古い本が目立つのは書庫に入れるべき本も、書庫が満杯のため書架に置かざるをえない実状からです。速いテンポでやってくるIT関係の技術革新の情報を網羅できるように各学科の先生方に最新図書の推薦をお願いし、毎年約1,800冊程度新しい本を購入しております。

「本・本屋・図書館」

電子制御工学科 湯浅 圖南雄

およそ学校と名がつくところには、図書館あるいは図書室がある。町にもあるし、会社にもある。本屋や図書館は、知識や興味の集積場所であると同時に、やすらぎの場でもある。私に限らず本好きにとっては、こうした場所がどこにでもあることは、いつでも憩いの一時を過ごせるオアシスがいつも近くにあるということである。

このような現状を踏まえ、図書館の環境を改善したいと検討を重ねてきましたが、学内の施設整備の長期計画に図書館が組み込まれていないことなどから、今すぐには改善できないことです。図書館委員会では閲覧室の拡充(学習スペースの改善・個人用学習スペースの確保)、独立したマルチメディアスペースの確保、視聴覚教材等を授業で使える部屋の確保などについて検討を加えてきましたが、図書館として使える面積に限りがあり、その殆どについて現時点で見通しが付かないことが判明しました。現在、もっとも必要に迫られている書庫について何とか増床できないか検討を加えていただいております。今年度旧学生課の部屋(139平方メートル)をいただき、書庫と閲覧室にあった本を、床の耐荷重の関係から一時保管しています。もし、現在お願いしている書庫を1階に造ることができれば、この部屋を有効利用したいと考えております。学生の皆さんが利用しやすい図書館を目指しておりますのでご要望等をお聴かせ下さい。



図書館や本屋にはいろいろ思い出がある。

小学1,2年の頃の思い出は、本屋の立読みとはたきである。年配の方はご記憶かと思うが、昔は、本屋ではよくはたきをかけて塵を払っていた。このはたきで本をパタパタたたいて、立読みの子供はよく追い払われた。私も、「小学一年」、「少年画報」などの子供雑誌を立読みして、よく本屋のおやじにはたきで追い払われた。でも、またすぐに舞い戻って本を開いて、はたきと、繰り返して、蠅の如く、しつこくまとわりついて、結局読んでしまうということをよくやった。昭和20年代の頃のことである。この本屋はまだ東京の東横線の祐天寺駅近くにあ